

031

テクノロジー型危機管理情報共有システム「災害ネット」によるバーチャル災害対策本部の実現

取組主体

BIPROGY 株式会社

従業員数

8068 人

想定災害

全般

実施地域

東京都

- ・災害対応時に散在する情報を「ホワイトボードにそのまま書き込む」感覚でパソコンやスマホから入力し、時系列で部署や場所を超えて共有する情報集約プラットフォームを開発。バーチャル災害対策本部を実現する。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

災害対応活動を、“時系列”で共有する情報集約プラットフォーム「災害ネット」

- ・クラウドやアウトソーシングなどのサービスビジネス等を手掛ける、BIPROGY 株式会社は、テクノロジー型危機管理情報共有システム「災害ネット」（以下、災害ネット）により、バーチャル災害対策本部を実現する。
- ・災害ネットは、長期にわたる災害対応活動を、“時系列”で部署や場所を超えて共有する情報集約プラットフォームである。メモ、ホワイトボード、模造紙に散在する情報を、「ホワイトボードにそのまま書き込む」感覚でパソコン・スマートフォンから入力する。
- ・本サービスは、2015 年から開始されており、特にコロナ禍以降は関係者が必ずしも出社していないことを想定した“バーチャル災害対策本部”（＝リモートでの災害対応）でも活用されている。本サービスは、自治体に加え、エネルギー、鉄道・空運、金融業など、幅広い業種業界で導入され災害に備えている。

- ・同社では、2008 年より防災分野での取組を開始した。自治体向けの別の災害情報システムを提供していたが、機能が多く複雑だったために実際に災害対応をされる職員の方に活用されなかったという苦い経験がある。

操作	No.	日時	件名	記事	区分1	区分2	対応状況	入力者	共有先
共有 詳細 修正	1967-2	2020/02/17 11:04	火事が発生しました。		報告	至急	完了	情報処理部	未共有
共有 詳細 修正	1967-1	2020/02/17 11:04	火事がおきています。		報告	至急		情報処理部	未共有
共有 詳細 修正	1958-1	2020/01/24 16:58	XXで土砂災害が起っています。		依頼	至急	未対応	情報処理部	閲覧

災害ネット 画面イメージ（クロノロジー画面）

- ・上記の経験の反省を踏まえ、災害ネットは、クロノロジー（時系列で起こった事象をそのままホワイトボードなどに書き出す手法）といった、災害時にどの団体でも行う対応をそのままシステム化した。一般企業や自治体で業種業界問わず活用可能なサービスとして提供を行っている。
- ・また、発災直後から各拠点の状況を現地から報告させ、手書きで書いていた表を、災害ネットでは、自動で一覧化、さらにステータスに応じて色分けされて表示されるため、視覚的な状況把握を可能としている。

- ・「あったら便利な機能であっても非常時に使えないなら作らない」といったコンセプトを徹底し、「非常時に使えるツールであること」を常に念頭に置いて機能追加を行っている。利用者にとって難しいと感じるところは全くなく、感覚的に情報集約ができるとの声があがる。
- ・各団体の活用状況を踏まえ、シ

No.	拠点名	コメント有無	ステータス	日時	人的被害	被害可否	電気	ガス	水道	電話	インターネット	生体ライン	車庫被害
1	A地区	あり											
1-1	工場1	あり		2020/02/17 14:40	なし	可	無事	無事	無事	無事	無事	無事	問題なし
1-2	工場2	あり		2020/02/19 13:36	なし	可	停電	無事	無事	無事	無事	無事	
1-3	工場3	なし		2019/10/16 16:23	なし	可	無事	無事	無事	無事	無事	無事	
1-4	工場4	なし		2019/05/18 14:54	なし	可	無事	無事	無事	無事	無事	無事	
2	B地区	なし											
2-1	工場5	なし		2019/10/04 15:44	なし	可	無事	無事	無事	無事	無事	無事	問題なし
2-2	工場6	なし		2019/10/18 10:15	なし	-	停電	無事	無事	無事	無事	無事	
2-3	工場7	なし		2019/11/08 16:16	なし	可	無事	無事	無事	使用不可	使用不可	使用不可	問題あり
3	C地区	なし											
3-1	工場8	なし		2018/07/06 17:57	なし	不可	停電	不明	使用不可	使用不可	無事	使用不可	問題なし

災害ネット 画面イメージ（拠点被害状況確認画面）

国土強靱化

ステム的なカスタマイズではなくマスタ設定にて反映できる幅を多く持たせる。班編成、情報共有先の設定などは、平時から完璧に想定しておくことは困難であり、訓練や実災害を踏まえて常にアップデートしていく。

2 取組の平時における利活用の状況や効果

- ・従来のバーチャル災害対策本部は、対面での情報共有に比べて、情報伝達のリアルタイム性が損なわれる、また、伝言ゲームのように情報共有を行うことになるため、正確性が損なわれるという課題があった。しかし、災害ネットは、シンプルな操作で情報入力ができるため、スピーディーな情報共有を可能にしている。また、文字情報で伝達を行い、下位組織から上位組織に至るまで同じ情報を閲覧できるため、伝達の際に情報が変化していくことを防げるという利点があり、災害ネットはバーチャル災害対策本部で課題となっていたこれら問題点を解決している。
- ・また、災害向けのツールを導入し、定期的に訓練を行うことにより、職員に対する災害対応の意識付けをすることに役立ったという声がある。また、災害ネットを利用するユーザーからは、「本サービスの利用をニュースリリースやホームページなどで公表することにより、自団体の CSR の取り組みのアピールに繋がった」との声もあがっている。

3 現状の課題・今後の展開等

- ・現状、本サービスは災害ネットユーザー企業・団体の社員によるインプット（直接入力）によって情報が集約されるものであり、気象情報や SNS 情報との連携などは行っていない。自団体内部の情報のインプットと合わせて、外部の情報を自動で取り込むことにより、社内外の情報を一元的に閲覧できる情報集約プラットフォームに昇華させていきたいと構想している。

4 周囲の声

- ・社内に散在していた情報を一元化できたため、情報共有がスピーディーにできるようになった。（サービス利用者）
- ・情報が集まり見える化されたことにより、無駄な問合せが減り災害対応に集中できるようになった。（サービス利用者）
- ・集まった情報から災害対応収束後の報告資料を作りやすくなった。（サービス利用者）

担当者の声

- ・BIPROGY では「日本企業／自治体の災害対策本部を強くしたい」という思いの元、災害ネットの提供を行っています。有事の際に、IT にできることは IT で効率化を行い、人間にしかできないこと（＝考える、対応する）に注力して頂けるよう、ご提供できることを模索しています。

問合せ先

BIPROGY 株式会社 法人番号：5010601058019
TEL：03-5546-4111 FAX：03-5546-7846 E-Mail：bousai_ict@biprogy.com

動画



サイト URL

